

FIT制度とFIP制度について

持続可能なエネルギー社会への
ステップアップ



太陽光発電による持続可能な
エネルギーの仕組み



FIT（固定価格）とFIP
（市場連動）の違いを知る



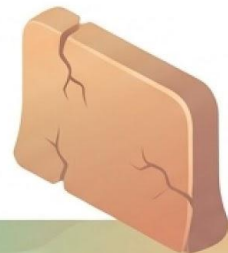
脱炭素社会に向けた
エネルギー政策の歩み

なぜ売電のルールが作られたのか？



きっかけは震災と エネルギー危機

東日本大震災を契機に、特定の電源に依存するリスクが露呈。エネルギー自給率の向上とセキュリティ確保が急務となりました。



高い導入ハードル

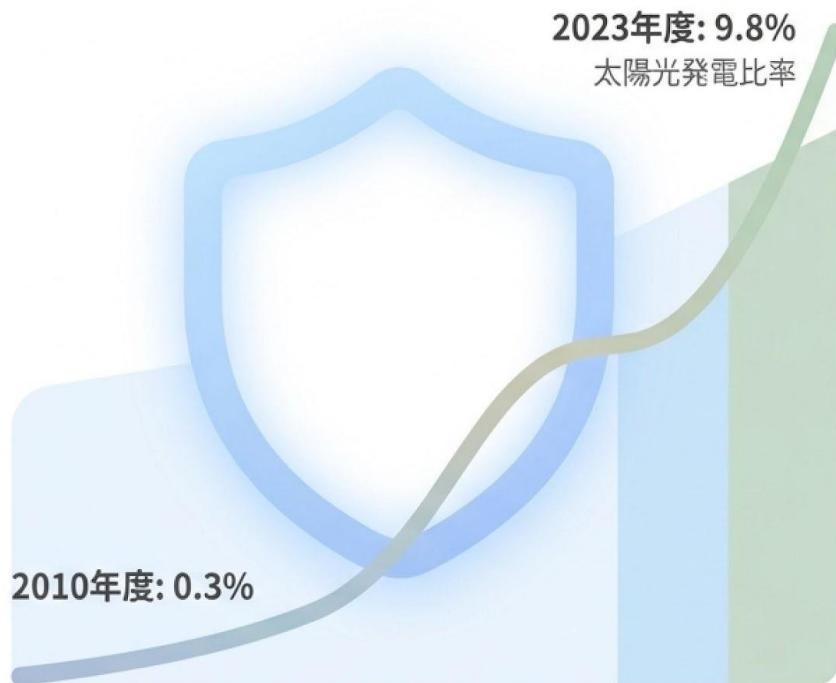
当初、再生可能エネルギーの発電コストは非常に高く、強力な公的支援なしには民間企業が参入できない状況でした。



地球規模の課題

「2050年カーボンニュートラル」に向け、国を挙げて再エネを主力電源化する必要がありました。

FIT制度（固定価格買取制度）： まずは「普及」を最優先に



- 強力な支援（2012年開始）
電力会社が、発電した電気を一定期間・固定価格で買い取ることを国が約束（義務化）。
- リスクの排除
事業者の投資リスクを極限まで下げることによって、参入障壁を取り払いました。
- 爆発的な普及
制度開始前（2010年度）はわずか0.3%だった太陽光発電比率は、2023年度には9.8%まで急成長しました。

拡大の裏で表面化した「社会的な課題」



家計への負担増

買取費用は「再エネ賦課金」として電気料金に上乗せされ、国民負担は増大(2021年度見込みで総額約2.7兆円)。



地域との摩擦

メガソーラー設置に伴う景観破壊や災害リスク(土砂崩れ等)への懸念から、トラブルになるケースが発生。






電力需給のアンバランス

需要の少ない時間帯にも発電され続け、電気が余る「出力制御」の問題も顕在化しました。

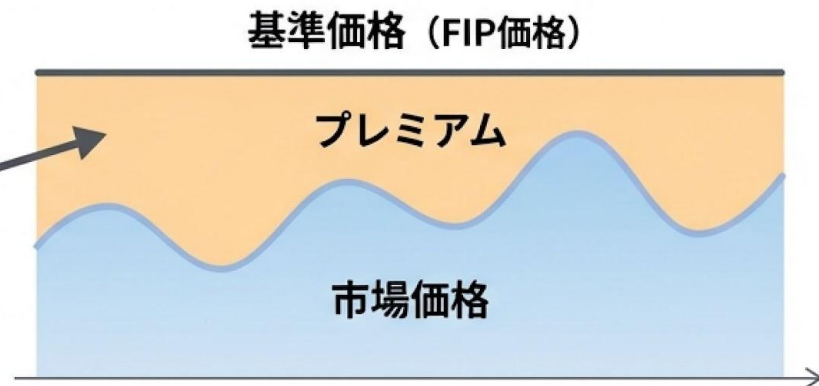
FIP制度：再エネを「自律」させるためのステップ



-  ● **市場への統合（2022年開始）**
再エネを特別扱いせず、他の電源（火力など）と同じように電力市場の中で競争させるフェーズへ。
-  ● **意識の変革**
「いつでも発電すれば良い」から、「電気が足りない（価値が高い）時に売る」ビジネスモデルへの転換。
-  ● **目的**
国の支援に頼り切らず、将来的には補助なしで自立したエネルギー源にすることを目指します。

市場価格に「プレミアム」をプラスする

$$\begin{aligned} & \text{プレミアム (補助額)} \\ & = \text{基準価格 (FIP価格)} \\ & \quad - \\ & \quad \text{参照価格 (市場期待収入)} \end{aligned}$$



⚙️ 売電の仕組み

発電事業者は、卸電力取引市場などで自分で電気を売ります。

📈 プレミアムの上乗せ

市場での売電収入に加え、国からの補助（プレミアム）を受け取ります。

⚡ インセンティブ

市場価格が高い（電力需要が高い）タイミングで売れば、トータルの収益を増やすチャンスが生まれます。

「固定価格」か「市場連動」か：決定的な違い

FIT (固定価格買取制度)



¥

- 価格：一定（固定）
- 責任：balancing免除
- 運用：発電することだけに集中

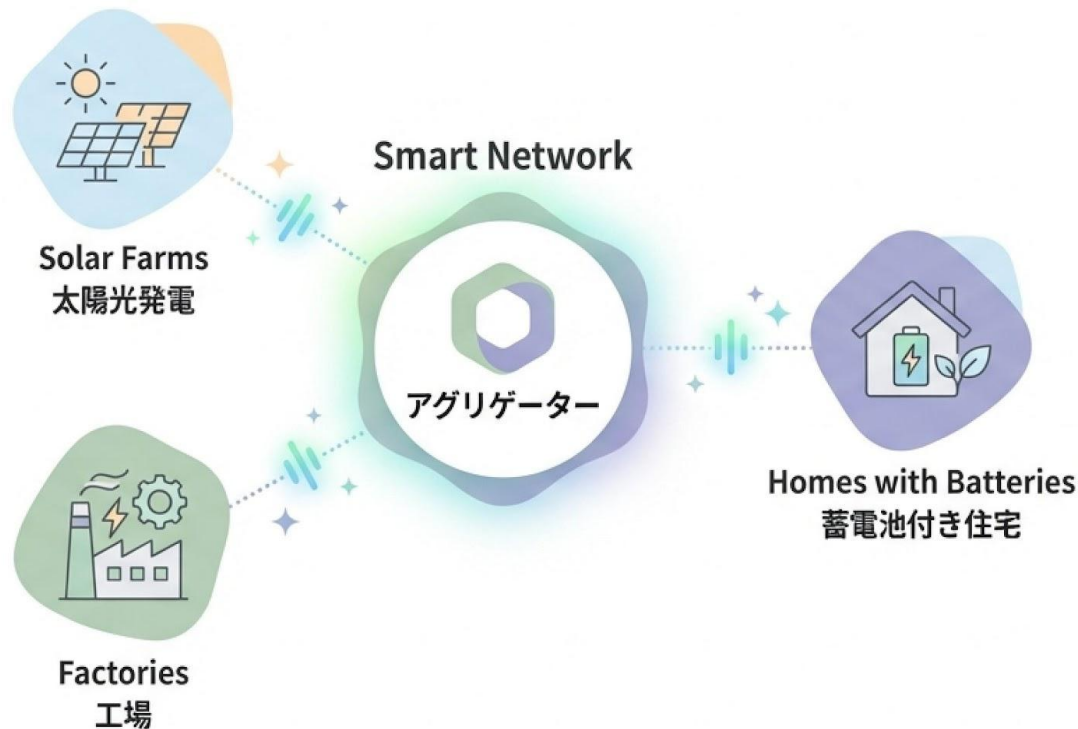
FIP (フィードインプレミアム制度)



▲

- 価格：変動（市場連動+プレミアム）
- 責任：balancing必須
(計画とズレるとペナルティ)
- 運用：売るタイミングの「工夫」が必要

賢く電気を供給するテクノロジーと新ビジネス



蓄電池の活用

太陽光が余る昼間（価格が安い時）に貯めて、夕方（価格が高い時）に売ることによって収益アップ。

アグリゲーターの役割

小規模な発電所を束ねて管理する「調整役」。個々の事業者に代わって市場取引や需給管理を代行します。

DXと予測

AIによる気象予測や市場価格予測を駆使し、発電と売電のタイミングを最適化します。

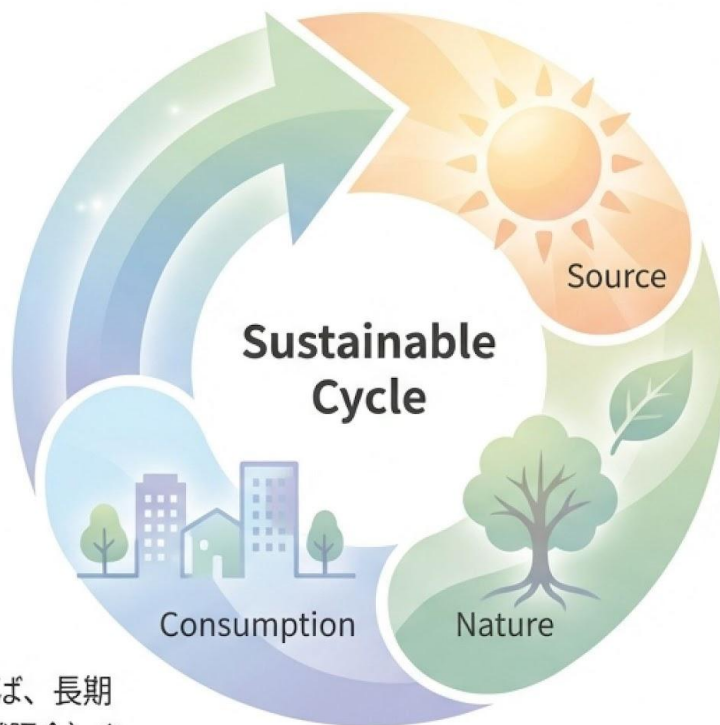
脱炭素社会の実現に向けて：2050年のビジョン

● カーボンニュートラル

2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロに。再エネを「主力電源」として確立させます。

● コスト低減

FIPによる市場競争が進めば、長期的には国民全体の負担（賦課金）を抑えることにつながります。



● 地産地消

地域で作った電気を地域で使うことで、送電ロスを減らし、系統への負荷も軽減。

まとめ：時代の変化に合わせた、再エネの新しい形



● 未来へ

どちらの制度も、環境に優しい電気を安定・低コストで届けるための工夫です。この変化を理解し、賢くエネルギーと付き合うことが大切です。



● FIP制度

再エネの「市場への自立」を促し、質を高める時代。



● FIT制度

再エネ「普及の土台」を作り、量を確認した時代。

FIP制度
(自立)

FIT制度
(普及)

Future
(持続可能な社会)